

広報
ばんたん



Vol.36

【特集】

この手に握る「夢のたま」

2009年
8・9月号

広報 なんたん もくじ

②	特集・この手に握る「夢のたま」
⑧	はじまっています市民協働
⑩	インフォメーション ・議員定数26人→22人へ ・9月から可燃ごみ袋をリニューアル! ・南丹ものづくりの祭典
⑫	行政トピックス ・「元気ねっと!五ヶ荘」協定調印式 ほか
⑭	いきいき南丹
⑮	人権の窓/環・境・市・民
⑯	図書館へようこそ!/暮らしにホッと
⑰	ぶらりなんたん
⑱	みんなのひろば ・2009南丹そのべ夏まつり ほか
⑳	なんたんミュージアム/わが家のアイドル

今月の表紙

南丹地域に生まれた新たなブランド「京のつちたま」を作る職人の手。小さなつちたまの穴の周りを丁寧に整えます。一つ一つに作り手の心が表れ、心癒やされる素朴さと夢がつまっています。

この手に握る

「夢のたま」

「京のつちたま」って知ってる?

丸くて、淡くて、優しい、土の玉。大きいのが小さいの、まんま一つ一つに表情や個性があり、どれにも温かさが感じられます。

「京のつちたま」。それは、柔らかいパステルカラーのつちたまが揺れる、焼きもののアクセサリ。南丹地域で生まれた新たなブランドです。ネックレス、ストラップ、ピアス&イヤリング、ヘアゴムなど、12色のつちたまから組み合わせられて商品になっています。大量生産されるものとは違い、すべてが手作りのため、まったく同じものは2つとありません。それこそが、この「京のつちたま」の魅力であり、持ち味なのです。

この「京のつちたま」を作っているのは、南丹圏域の就労支援事業所で働く皆さん。さまざまな障がいのある方々が共働して創り出す美術品であり、誇り高きものづくり商品です。

色も魅力の一つ、こだわりがあります。上塗りするのではなく、原料となる土に顔料を練り込みます。そのまま焼きしめるので、土が本来持つ温かさや柔らかさ、大地のパワーが感じられます。現在12色で、平安時代に季節ごとの色に衣装を組み合わせたと「襲(かさね)の色目」を取り入れています。それぞれに意味があり、それを結び合わせる遊び心もあります。作り手の真つすぐな思いが、商品を手にとった人々の感性と重なり合い、そこにまた新たな価値が生まれます。



ころころ

ころころで

ひとつずつ。

京のつちたま、

手のひらから

あなたへ。

「京のつちたま」の生い立ち

障がいのある人々の持つ芸術性を引き出す新製品を開発し、それを販売することで工賃アップを図る南丹圏域の「アートクリエイティブ事業」。その第1号製品となったのが「京のつちたま」。

社会福祉法人京都太陽の園（園部町横田）をはじめとする南丹圏域の就労支援事業所と京都伝統工芸大学校（園部町小山東町）、そして京都府南丹保健所が協働で商品開発に取り組みました。

最初から「京のつちたま」構想があったわけではありませんでした。それは、まさに二人三脚。京都伝統工芸大学校教授の陶芸専攻の工藤良健さんは、「障がいのある人の豊かな感性を生かそう」と夜を徹して試作品を作られたそうです。そして始まった陶芸教室。障がいのある人たちと一緒に粘土をこね、やがて見えてきた可能性、創造性、夢。試行錯誤の末にたどり着いたのが、一番単純で重度の障がいのある人でもできる「丸める」という作業。いや、障がいがあるからこそ、できることなのかもしれません。一つ一つに作り手の感性が表れ、心癒やされる素朴さがそこにはあります。

丸めた後の工程は、できる作業を分担して進めます。穴開け、バリ取りといわれる穴周りの掃除、金具を取り付ける作業など。力を合わせてみんなの手で一つの作品が出来上がります。

商品として売り出すにあたって、販売戦略会議が行われました。そこで商品パッケージには、「障がいのある人が作った」ということはあえて書かないことにしよう、と話し合われました。『障がいのある人が作ったから買ってください』というものではないし、ましてや情けや哀れみを請うものでもない。「京のつちたま」職人が作った一ブランドとしての価値を持って、世の中に売り出そう』という思いが込められています。

もちろん、商品が売れることは「京のつちたま」にかかわるすべての人の願いです。働いたその対価を受け取るとは労働者の当然の権利。商品がたくさん売れるほど職人たちの工賃は上がり、それでこそ、この商品開発は成功したと言えるのでしょうか。障がいのあるなしにかかわらず、社会に参加すること、認められることが、自分の自信となり誇りとなり、また次の行動力へとつながっていくのではないのでしょうか。

つちたま職人のまなざし

日吉町生涯学習センター（日吉町保野田）の美術工作室で定期的に行われている「京のつちたま」教室。つちたま作りは、南丹市、亀岡市、京丹波町の9つの就労支援事業所に取り組みられており、その輪は徐々に広がりを見せています。教室には、各事業所から通所者やスタッフが集まり、京都伝統工芸大学から来られる指導者に技術を学びます。そしてその技術を持ち帰って日々の作業に生かします。土のこね方、金具の取り付け方、それは、はた目から見ても素人には難しい職人技。しかし、意外にも土を丸める作業が難しい。ちよつとした力の込め具合に



▲教室で技術を学ぶ「京のつちたま」職人たち



▲作業を進める中西さんのまなざしは職人そのものです

よって、いびつな形になってしまいます。なかなかきれいな丸にはなりません。根気よく転がして、角を取って丸く仕上げます。

この「京のつちたま」職人には、車いすで生活をしている人や片手しか使えない人などさまざまな障がいのある人がいます。

京都太陽の園に通う中西隆男さん（園部町）は、子どもころの高熱が原因で脳性まひになったとのこと。首にタオルをかけ、汗をかきながら器用に土を丸めたり、穴を開けたりされます。

「普段は印刷部門の会計を担当しているので、精神的なプレッシャーと責任で心理的にしんどい時もあります。でも、この『つちたま』作りをしているときは無心

になって作業ができます。そして、その後も集中ができて、お金の計算もしやすくなるんです」と話す中西さん。「自分たちが作った作品を持っている人を見たら、『お、仲間がおる！』とうれしくなりますよ」と、ちよつと照れくさそうに微笑み、また真つすぐなまなざしを手元に戻して作業を進められました。

片方の手に障がいのある女性は、もう一方の片手で手元も見ずに土を丸められます。「見なくても丸くできるのですか？」と尋ねると、「見ても見なくても一緒。指先の感覚で、形がおかしいところは分かるもの」。さすが、その女性のつちたまはきれいに整った丸形に仕上げられていました。

「京のつちたま」ができるまで

①こねる
「菊ねり」というこね方で粘土をしつかりとこねます。土には発色するように顔料が練り込まれます。



②丸める
小さいものや大きいもの、少しずつ表情の違う玉が丁寧に丸められます。

③穴あけ
丸められた玉の中央に針金で穴を通します。この穴に金具が取り付けられることとなります。



インタビュー

『働く喜びが生み出す美しさ』

アート・クリエイティブ事業

代表 徳川 輝尚 氏
とくがわ てるひさ

(京都太陽の園常務理事)



「労働」にはいろいろな目的があり、お金をもうけることも1つです。しかし単にそれだけを目的とするなら、労働の半分の意味ではないのではないのでしょうか？

私は、「労働」はすべての人の権利であり、喜びであり、誇りであると思います。働くことにより「自分にこんなことができた」という喜び、そして「人の役に立てた」という誇りが得られるのです。

以前、重度の障がいのある1人の男の方が、不良コイルの銅線をほどく作業に挑戦しました。1個ほどけば1円もらえます。その男の方は震える手で1カ月かけてようやく10円を

稼ぎました。「息子に金もうけができるはずはない」と思い込んでいたその男の方の母親が訪れたときも、男の方はその十円玉をしっかりと握り締めていました。それが、息子が生まれて初めて稼いだものだと思つた母親は、感動のあまり泣き出したのです。見た目の結果は小さくても全力を尽くして得た「十円玉の重み」、これが労働の大きな目的だと思います。

障がいのある人が作つたものには大量生産品にはない「深み」があります。それは、一つ一つゆっくりに時間をかけて丁寧にならされるからではないのでしょうか。

彼らは「お金もうけ」だけを目的とせず、「働ける」という純粋な喜びで「つちたま」を作っています。「京のつちたま」の素朴な美しさは、そんな彼らの心から生まれました。ですから、「障がいがあるからこそできる美術」として、私は誇りを持って世の中に広めたいと思っています。「京のつちたま」を1人でも多くの皆さんにお届けしたいと思います。

「京のつちたま」を創作された工藤良健先生とボランティアの皆さん、一生懸命に「つちたま」を丸めている障がい者の方たちに感謝しています。

細長く土をのばして細かく切つてから丸める人、テーパーの上で手で転がして丸める人、指1本で、手のひら全体で。自分にとって最適の方法で、それぞれが作業します。

形のない土の塊から、丁寧に丸められるつちたま。ころころころ。丸く、丸く、丸く……。このつちたまは、誰かを癒やすことができるかもしれない。もしかしたら、誰かを元氣付けることができるかもしれない。このつちたまを手にする人に、優しい気持ちになつてほしい。

手の中で、小さな玉に真つすぐな思いと優しい命が吹き込まれていきます。



▲丸く、丸く、丸く…

④バリ取り
穴あけの時に周りに付く土を取り除いてきれいにします。

⑤乾燥

⑥本焼き

上薬は塗らずに、そのまま窯の中で焼きます。

⑦研磨

表面が滑らかになるようにミルにかけて研磨します。

⑧乾燥

⑨金具取り付け

商品ごといろいろな金具を取り付けて仕上げます。

⑩パッケージ



色を重ね、想い重ねて

「京のつちたま」の色は平安の12色。平安時代、四季折々の自然の彩りなどを衣裳の色に重ねてのせた「襲（かさね）の色目」を取り入れて、京の伝統を受け継いでいます。

つちたまの色には、一つ一つに意味が込められています。「一途

「つちたま」の十二色

黒椽（くろつるばみ）・紫みの黒色

すべてを包み込む心

濃藍（こいあい）・濃い青色

一途な気持ち

浅葱（あさぎ）・緑みの青色

奥ゆかしき姿

桜（さくら）・薄い紅色

ほのかな想い

黄櫨染（こうろぜん）・赤茶色

安定した世界

萌黄（もえぎ）・黄緑色

恋の気配

な気持ち」をあなたに、「永遠の若さ」をいつまでも、「遠き思い

出」を大切に……。伝えたい気持ち、願う心、今の気分など、それぞれ色にのせて、自分だけのオリジナルアクセサリーを作ることができます。つちたまの色には、そんな平安時代の物語をイメージさせるような面白さと遊び心があります。

苔（こけ）・濃い黄緑色

心の癒やし

松葉（まつば）・深緑色

永遠の若さ

黄支子（きくちなし）・明るい黄色

秘めた想い

承和（そが）・薄い黄色

ろうたける（※）思い

紫苑（しおん）・くすんだ青紫色

遠き思い出

練（ねり）・絹の白色

無垢な心

※ろうたける…

洗練された、経験を積んだの意味

「つちたまは、色が命です。色の不思議。色の効果。色を重ねる。一瞬のひらめきがありました。

以前から、平安の色重ねを知っていました。色重ねは女性の教養であり、アピールです。自然を表すもの、四季を表すもの。昔の人は感性が豊かでした。色に人の思いや願いを込める。色で気分を表せて、色で気分が変わり、色で気分を変えられる。魅力は色。万人が感じる色。

つちたまは『夢のたま』。人の望み、夢のかたまり。そんな『夢のたま』が色になり、花開く。つちたまは、夢色なのです」

（京都伝統工芸大学校

教授 工藤 良健 氏）



技極め、マイスターに認定

京都府南丹広域振興局で昨年10月に創設された「障害者南丹地域マイスター制度」。さまざまな分野で卓越した技術のある障がい者をマイスターとして認定し、今後さらなる活躍を支えていこうとするものです。

このマイスター第1号に、京都太陽の園に通所する上原つる代さん（亀岡市）が認定されました。上原さんはニッパなどの道具を使って、ネックレスやピアスなど商品ごとに小さな金具をつちたまに取り付ける細かい作業を担当されています。その高い技術が認められ、マイスター認定証が授与されました。これまでもビーズアクセサリー作りを担当されるなど、細かい作業を積み重ねる中で身に付いた技術とのこと。上原さんの手の中で、小さなつちたまに商品としての命が吹き込まれていきます。



▲高い技術が認められた上原さん



▲手の中から生まれる「京のつちたま」(上・下・右)



手の中から、広がれ

昨年10月から、西友亀岡店(亀岡市追分町)の4階「なんたんハートショップ」に「京のつちたま」コーナーができました。

ここには、「京のつちたま」をはじめ、南丹圏域の就労支援事業所で作られた手作りの「ほっとはあと」製品が販売されています。

店内には、さをり織り製品、ステンドグラスのランプシェード、七宝焼やビーズのアクセサリ、手染めのてぬぐいなどのほか、焼き菓子や漬物などの食品も置かれています。毎週月曜日が定休日です、午前11時から午後6時まで開



▲なんたんハートショップ店内に並ぶ「京のつちたま」

店しています。

また、今年7月からは新たに専用のホームページを開設し、インターネット販売も開始。本格的な全国展開が始まりました。このインターネット販売では、自分の好きな色のつちたまを選んで希望のアクセサリに組み合わせることができます。

「美術のノーマライゼーション」。それは、徳川輝尚代表の言葉。では、ノーマライゼーションとは何か。障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が同じ条件で生活が送れる社会。それが本来のあるべき姿だとする考え方のことだといわれます。

美術の分野においてもそれは同じことだと話す徳川さん。障がいがあるから美術的センスはないのではなく、むしろ障がいのある人々だからこそ発揮できる能力があるということ。

「京のつちたま」には、これから全国に広がり、そしていずれ世界に広がっていく『夢』がいっぱいつまっています。可能性は無量大。広がれ、広がれ、この手の中から世界へ。

■「京のつちたま」ホームページ
<http://www.tsuchitamajp/>

市民協働

④



ルリルリ

これまで12回にわたるワークショップや話し合いを進めてきた「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」。委員会での意見をまとめて市長に協働のまちづくりの提言を行うため、話し合いを進めています。

これらをまとめた中間報告を基に、市民ワークショップを開催しました。

ブーナンおじいさん

「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」の話し合いもだいぶ進んできたようじゃ。さくらちゃんもルリルリは、7月5日に開催された「市民ワークショップ」に参加したんじゃないかな？

ルリルリ そうだよ。出席者はあまり多くなかったけれど、参加したみんなと色々な意見交換ができたルリ。

さくらちゃん ええ。これまでの検討委員会で話し合われた内容がまとめられた「中間報告書」が当日の資料の中にあつたわ。みんなに広く見てもらえるように、南丹市の「市民協働」のホームページにも掲載されているそうよ。

ブーナンおじいさん どれどれ？

ほお、ふむふむ、

なるほどのお。



ブーナンおじいさん

最初の方には、なぜ今こんなに「市民参加」や「協働」が全国で積極的に進んでいるのか、その背景についてまとめられておるのお。ふむ、そしてこれまで話し合われた南丹市の現状や市民参加・協働の現状のまとめ、それから、市民参加条例を制定することについて、市民主体の市民参加・協働による南丹市をつくるための一つの手段として提案されたんじゃないな。

ルリルリ そうそう。なんだか難しそうだなあと思ってたけれど、読んでみたら、なるほどって感じだったルリ。

さくらちゃん それからワークショップでは、福祉・安全安心・情報・環境のテーマごとに分かれて、市民参加と協働のまちづくりについて具体的な提案も交えながらみんなで意見を出し合ったのよ。

ルリルリ あのね、廃校を活用する提案とか、南丹市の全地区對抗の大運動会をしたらどうかとか、ワクワクするような面白い意見もたくさんあつたルリ。

さくらちゃん それでね、それら

を実現するためにはどうしたらいいか、市民参加と協働を進めていくための条件はどう整えていったらいいかを話し合ったのよ。

(コンコン！)

あら？誰かしら？

カジカくん やあ、さくらちゃん、ルリルリくん。先日の「市民ワークショップ」に参加したカジカです。ブーナンおじいさん、ごぶさたしています。



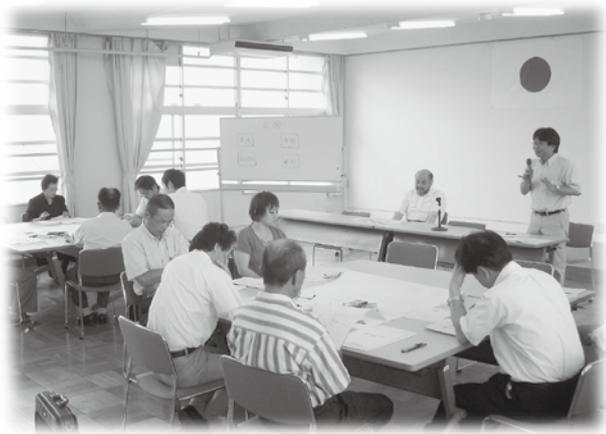
※カジカくんは南丹市の清流にすむカジカガエルをモチーフにしています。カジカガエルは美しい声で鳴くカエルで、南丹市では生息地や繁殖地を保護する河鹿蛙保護条例を制定しています。

ルリルリ あっ、カジカくんだ。こんにちは。

ブーナンおじいさん おお、カジカくんか。久しぶりじゃのお。

元気にしとったかの？

カジカくん はい、おかげさまで。川や自然を美しくする運動が広まっていて、僕たちの住みやすい環境が保たれています。



7月5日のワークショップの様子

「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」が主体となって、園部会場と美山会場で市民ワークショップを開催しました。

それで、僕にも何かできることがないかと、先日の「市民ワークショップ」に参加したので。先ほどから皆さんで「市民参加」と「協働」について話をしていくようですが、この2つは同じ意味ではないですよね？ それぞれの意味について、もう一度確認しておく必要があるのではないのでしょうか。



ルリルリ ええ？ 同じ意味じゃないの？ 2つでセットみたいにしていったルリ…。

ブーナンおじいさん ふむ。よく一緒に並べて使われておるが、「市民参加」と「協働」を進めていくにはそれぞれについてよく理解しておいた方がよいな。

カジカくん そうですよ。一般的に「市民参加」とは、まちの政策などにおいて企画立案から決定に至るまで、市民が主体的に意見を述べて提案することとされていますよね。この「市民参加」の範囲や役割をルール化したのが、市民（住民）参加条例といわれるものです。

さくらちゃん じゃ、「協働」はどういう意味なの？

カジカくん 「協働」は市民、行

政などが対等な立場でお互いを尊重し、役割分担をしたり、補い合ったりしながら公共的課題の解決にあたることとされています。全国的には、この2つを理解した上で、「市民参加・協働条例」と呼ばれるルールを作っているところもあるそうです。

ブーナンおじいさん よく研究しておるの。感心感心。「市民参加」は、市民が主になって市政にかかわっていくことを具体化したもので比較的分かりやすいじゃろう。では、「協働」はどうじゃ。協働を進めるにあたって「協働の領域」つまり、どこまでが公共的な課題なのかをみんなが共通認識することが必要じゃ。南丹市は面積が広大な上に、地域ごとに特徴があるから課題も多様なんじゃよ。

ルリルリ じゃ、お互いの地域性を理解し合うことから始まるルリ？

ブーナンおじいさん そうじゃそうじゃ、そのとおりじゃ。

カジカくん なるほど。例えば、積雪量の多い地域にとつて、雪害の問題は生活にかかわる大きなことですよね。でも、雪が少ない地域では雪害の心配はないけれど別に抱える問題があるで

しよう。そういった地域の一つ一つの課題を「公共的な課題」とするのはどうかをまず考えるのですね。そして、その課題を解決していくために、どの単位で取り組むべきなのか意識を統一するということですね。一番身近な区単位で取り組むか、町単位か、もつと大きな単位か。

ルリルリ そっか！ そのルールづくりを今進めているんだね！ でもさ、いくらルールができて、市民のみんなが「自分たちが主体となってこれからのまちづくりを担っていくんだ」っていう意識が高まらないとあまり意味がないルリ？

ブーナンおじいさん そのとおり。協働のまちづくりには、市民の自主性や主体性が欠かせないのじゃ。そしてみんなが持つておる豊かな経験や知識が、それぞれの地域の公共の場で生かされると、「地域の力」はさらに高まるじゃろうな。

さくらちゃん 一人一人が役割を認識して、地域の課題解決に取り組んでいかなきゃね。住んで良かったと思えるまちにするために！



さくらちゃん

議員定数26人 → 22人へ

賛成・反対の討論を経て

南丹市議会議員の定数は、現在、地方自治法の規定に基づく上限数の26人（うち欠員1人）。この議員定数について、6月定例会で改正案が議員提案されました。賛成・反対の討論の結果、現行から4人削減し、次回選挙から議員定員を22人とする条例案が賛成多数で可決されました。

委員会でも専門的に審議

議会には、最終意思決定を行う「本議会」のほかに、専門的に審査を行う「委員会」があります。その委員会の一つに、議会や議員の活性化に関する調査を行う「議会活性化対策特別委員会」があり、昨年11月から9回にわたって慎重に論議が行われました。市の行財政改革に議員自ら率先して寄与することや、市の一体感の醸成のため全市域を1選挙区とするのと、市民の声を行政に反映できる人数の確保などに重点を置き、また人口や市域面積、近隣市町の状況なども併せて総合的に22人が適切であるとの判断が示されました。

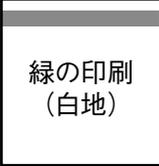
委員会での審議結果を受けて、6月定例会の本議会で賛否両論が交わられました。「議員数の削減は行政と住民のパイプを細くする」という反対意見、「厳しい財政状況の中、議会だけが聖域である事は許されない」、また「市全域の視野に立ち、平均的に各地域が発展するよう行政に反映させることは議員としての責務である」という賛成意見が添えられました。

本議会最終日の6月24日、表決の結果、「原案可決」の結論が出されました。

次回の市議会議員選挙から適用

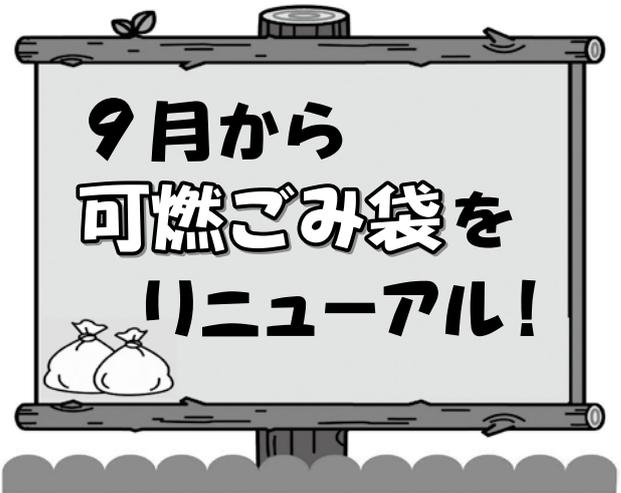
現議員の任期は来年の2月18日まで。この任期満了日までに行う次回の市議会議員選挙から、新定数の22人を適用します。また南丹市発足時には旧町ごとに選挙区を設けて行いましたが、次回からは全市域で1選挙区となります。

南丹市民35,000人を代表する22人の市議会議員。選ぶのは選挙権のある市民の皆さんです。大切な一票、必ず投票しましょう。

旧	販売価格(税込) 20枚/1セット		特長 平袋タイプ  ※炭酸カルシウム25%混入
	大袋 (約45リットル)	1,533円	
	小袋 (約30リットル)	1,260円	

※これまでの袋も引き続き使用できます。

新	販売価格(税込) 10枚/1セット		特長 レジ袋タイプ (マチ付き)  ※再生原料40%以上使用
	大袋 (約45リットル)	756円	
	中袋 (約30リットル)	630円	
	小袋 (約15リットル)	315円	



船井郡衛生管理組合の「可燃ごみ指定収集袋」が、袋の口が結びやすいレジ袋タイプ（マチ付き）になりました。

また、新たに小さなサイズ（約15リットル）が増え、ごみの量にに応じて大・中・小の3種類を使い分けることができます。

販売枚数は20枚1セットから買い求めやすい10枚1セットに変更。色も青地の袋に紺色の印刷になりました。

新しい袋は9月から販売を開始していますが、これまでの指定収集袋も引き続き使用できます。

京都新光悦村 会場

10/31(土)

- ◇村びらき記念式典
- ◇立地企業紹介展示

10/31(土)

■工芸作品展示販売

■南丹味わいストリート

■南丹掘り出しものマーケット

■縁日コーナー

京都府中部文化芸術祭

■「よさこい踊り」フェスティバル

■みんなで灯す南丹灯りの祭典

■南丹市文化祭合同開会式

■昔ながらの紙芝居

■秋の夜なが 星空と灯りの朗読会

10/17(土)～

11/15(日)

■源氏物語千年紀特別展示

南丹市立文化博物館 会場

南丹市国際交流会館 会場

10/31(土)

■工芸職人作品展示会

■南丹ビートフェスティバル

■ふるさと味わい南丹の食

■南丹食の祭典コンテスト(～11/1)

11/1(日)

■南丹文化体験百貨店コーナー

10/28(水)～11/1(日)

◇TASK祭

10/28(水)

◇伝統的工芸品月間国民会議
全国大会記念式典

10/28(水)～11/1(日)

◇京都感動創造ものづくりフェア

京都伝統工芸大 会場

南丹ものづくりの祭典

今年の秋はイベントが盛りだくさん！平成23年の「国民文化祭・京都2011」のプレイベントとして、南丹市で「ものづくり」をテーマにした祭典を開催します。詳しい内容はお楽しみに！

『全国に発信！南丹市ものづくり力』

「技」、輝く

この地に根付く

ものづくり

人をいざない、

学び、

そして未来へ

行政 トピックス



学生の発想をまちづくり
集落の新たな魅力の発掘へ

―「元気ねつと！五ヶ荘」協定
調印式―

日吉町四ツ谷・佐々江集落で組織する「元気ねつと！五ヶ荘」（岩本照代表）と、立命館大学国際関係学部の河村律子准教授が、「ふるさと共援活動組織協定」を7月1日に締結。同集落は234



▲協定書に署名される河村准教授（左）と岩本代表



▲学生や住民ら調印式出席者で記念撮影

世帯521人（7月1日現在）。過疎・高齢化により農村環境や地域資源の保全、伝統行事の継承などが住民に大きな負担となっていました。この地域づくりへのアドバイスを受けながら、共に活性化を図る研究が進められます。

調印式では、岩本代表による地域再生への期待に満ちた決意表明を受け、河村准教授が「学生の若い発想と力を生かして新たな価値を見いだし、お互いに意義あるものにしていきたい」とあいさつ。その後、学生らと共に「玉岩地藏堂」など集落を視察しました。

また、8月1日には顔合わせとして、地元の方と学生が郷土料理を囲んで交流しました。

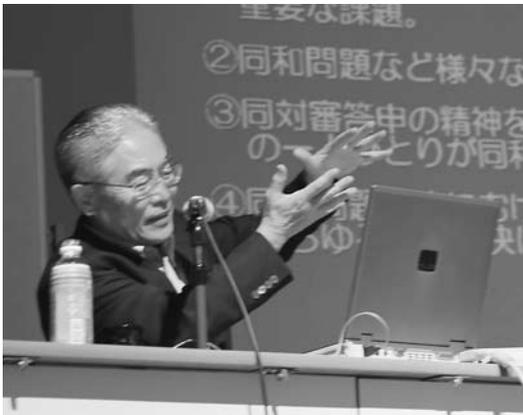
人としての尊厳を考えよう

―南丹市人権教育講座―

人権意識を豊かにし、家庭・地域などで一人一人が正しく理解して行動がとれるよう、今年度3回の人権教育講座を開催しています。

第1回は7月22日に、依然として重要な課題である「部落差別」について友永健三氏（社団法人部落解放・人権研究所理事）を講師に園部公民館で開講。「国際的な責務として、差別の現状を明らかにし、解決に向けた教育や人権侵害の救済、人権尊重のまちづくりなどが必要」と説かれました。

第2回は9月17日に、第3回は10月16日に開講予定です。



▲潜在する同和問題の現状を指摘される友永氏



▲職員に見送られて退任する仲村副市長（中央）

「踏ん張りの先に心の成長」職員に向け職務最後の訓示

―仲村副市長退任式―

仲村脩副市長が6月30日付で退任しました。仲村副市長は、平成18年7月から助役（19年4月、法改正で副市長に改称）として3年間にわたり南丹市のまちづくりに尽力。

退任式では、市職員を前に「任期途中の辞任で迷惑を掛けるが、今が適切な時期であると自分自身で判断した。厳しいことも言ってきたが、踏ん張りの先に必ず心の成長がある。力を合わせて頑張っ

てほしい」とあいさつしました。副市長は当面、岸上吉治副市長の1人体制となります。

神吉―日置・氷所の新ルート

―紅葉山トンネル貫通式―

独立行政法人森林総合研究所による農用道路の整備として昨年1月に着工した紅葉山トンネルの貫通を祝い、7月31日に八木町地内のトンネル坑内で式典が行われました。延長768mで八木町神吉―日置・氷所を結ぶ新ルートとなります。関係者が見守る中、貫通掘削が行われ、通り初めを挙行。その後、威勢良くなるみこしが入場し、鏡開きが行われました。

紅葉山トンネルは今年度中に完成する予定で、来年度中の開通に向けて工事が進められます。



▲貫通穴の前で鏡開きが行われました

成功させよう！国文祭京都

―第26回国文文化祭 南丹市実行委員会(第1回)―

平成23年に京都で開催される国文文化祭。「ここをを整える『文化発心』」をメインテーマに、京都ならではの特色ある事業の展開に向けて、府内の各市町村で現在準備が進められています。

南丹市では、7月21日に各関係機関・学校・団体などで構成する第1回実行委員会を開催。会則により南丹市長が会長に就任し、役員体制や、国文文化祭での南丹市の担当種目などを確認しました。また、イベントとして本年度実施する事業が承認されました。



▲国文文化祭に向けた今後の進め方について協議

伝え、つなぐ文化の大切さ

―ものづくり南丹 文化伝承特別講演会―

国文文化祭800日前記念イベントとして、また今年秋の伝統的工芸品月間国民会議全国大会・南丹ものづくりの祭典の成功を目指した特別講演会を開催。南丹市国際交流会館を会場に、300人の来場者が伝統文化にふれました。

佐々木市長のあいさつに続き、「ものづくり南丹PRビデオ」を上映。第1部は、財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事・事務局長で、国文祭京都府実行委員会特別顧問の冷泉貴実子氏を迎えて、「伝統工芸と文様」をテーマに講



▲伝統文化について話す冷泉氏

演。冷泉氏は「技を創出することができるのはわずかな天才。その天才が作り出した技を後世に伝えていくことも必要なこと」と話されました。

第2部は、財団法人伝統的工芸品産業振興協会会長、西陣織工業組合理事長で、国文祭京都府実行委員会副会長の渡邊隆夫氏を迎えて、「伝統産業と西陣」をテーマに講演。伝統産業の定義や西陣織の特長・製作工程などをお話しいただき、結びに毎日着物を着られている渡邊氏流の着こなしを伝授していただきました。

同会場のロビーでは京都匠塾による「京の伝統工芸こども教室2009」を同時開催。子どもたちが茶道具作りに取り組む様子を公開しました。



▲気軽に着られる着物の着方を披露する渡邊氏

いきいき南丹

—33—

お元気ですか？
保健師です。



新型インフルエンザに注意

「感染の疑いがあれば、医療機関に電話を！」

世界では死者1,400人超

全国的に感染が広がっている「新型インフルエンザ」。集団感染や患者の重症化が懸念されています。

南丹保健所管内でも新型インフルエンザの流行がみられています。主な症状は38度以上の発熱、せき、全身のけんたい感です。感染力が強いものの、多くの患者が軽症のまま回復されています。

しかし一方では、世界保健機関が発表した8月6日時点での新型インフルエンザによる死者は、累計1,462人に達し、国内でも死亡例が報告されています。

秋冬には感染拡大が予想され、今後ウイルスが変異する可能性もあります。また、糖尿病やぜんそくなどの持病がある方、妊婦や乳幼児、高齢の方は重症化する恐れがあるので特に注意が必要です。

徹底した予防を！

感染した人のせきやくしゃみ、つばなどと共に放出されたウイルスを吸い込んだり、ドアノブなどウイルスが付着したものに触れてから目・鼻・口に触れたりすると感染することがあります。

手洗い、うがい、マスクの着用を心掛け、栄養や睡眠を十分にとって感染を予防しましょう。

また、持病がある方は、念のためかかりつけ医に相談しておきましょう。

流行している場所に行かない。人ごみを避ける。マスクを着用する。

手洗い・うがいをきちんと行う。咳エチケットを心がける。

栄養や睡眠を十分にとり、体調を整える。

受診方法

インフルエンザかな？と思ったら



発熱・せきが出る・体がだるいなどの症状「もしかして…、新型インフルエンザ?！」

まずは電話を！



医療機関に事前に電話をかけて、受診時間や入り口について指示を受ける。



感染の拡大を予防しよう！

公共交通機関の利用は避け、できる限り自家用車などを利用する。

医療機関の指示に従って受診



受診の際は、マスクを着用。マスクがない場合はせきエチケットを心掛け、ほかの患者から離れたところに座る。

「新型インフルエンザ」と診断されたら

医師の指示のもと、ほかの人への感染を予防するために、症状の始まった日の翌日から7日間、自宅療養してください。入院は重症の方のみとなります。

患者の家族（同居者）は、外出を控えてください。発熱などの症状があれば、医療機関に電話をしてから速やかに受診しましょう。

新型インフルエンザ相談窓口

かかりつけ医がない、受診先が分からない、自宅療養について相談したいなど、お問い合わせください。

◇南丹市健康課 相談窓口

Tel 0771-68-0016
(平日の午前8時30分～午後5時15分)

◇南丹保健所 相談窓口

Tel 0771-62-2979
(平日の午前8時30分～午後5時15分)

<最新の情報はホームページで！>

南丹市 <http://www.city.nantan.kyoto.jp>

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

京都府 <http://www.pref.kyoto.jp/shinflu/>

「『言葉』の大切さを考える」

4月の学校は、新入生はもちろん、上級生や職員も、新しい「出会い」に期待と不安が入り混じっています。

摩気小学校の人権旬間は年2回。1回目はそんな1学期の初めに設定しています。

今年是人と人の心をつなぐ『言葉』について考えることにしました。気持ちのよい言葉づかいをすることによって、仲良く楽しい学校生活を送れる態度を養おうと取り組みました。

フ ピール集会」では人の気持ちになる言葉を「ちくちく言葉」と名付けて紹介し、「ほかほか言葉」をいっぱい増やそうと呼びかけました。

私が担当する1年生に、「どんな言葉を言われたらうれしいですか?」と尋ねると、「おはよう」「いってきます」「おかえり」「ただいま」「おやすみ」などの毎日のあいさつがあげられました。もちろん、「ありがとう」「ごめんね」「いっしょにあそぼう」など、かわりをより深める言葉も

あがったのですが、初めてあがってきたのがあいさつだったのは、意外でした。裏返すとそれだけあいさつは小さい子どもたちにも伝わる大切な言葉なのだを再認識しました。

夏休み前の懇談会では、「子どもから注意されますのや。『お父さん、それはちくちく言葉やで』と」「昔は言葉について、こんな教育は受けてこなかったと思いますが、最近はこのことも教えるのですね」という感想を聞かせてもらいました。

大 人は日々、「言葉のシャワー」を受け流すことなく、人と人の心をつなぐ『言葉』について子どもたちと共に考え、教えていく責任があると感じています。

(摩気小学校 人権教育主任 岩崎 ひろみ)



市内で発見した感謝のエコ活動を紹介します。



8月1日
「そのべ夏まつり」でのソーラーカー試乗体験。(写真) 訪れた親子や小学生を

乗せて元気に走りました。
このソーラーカーは元八木中学校教諭、谷口信政さん(亀岡市)の作で、10年以上同校の授業で活躍し、大切にされてきました。

同校には平成7年度に太陽光発電設備が設置。その時生徒らが身近に見られるようにと2枚のソーラーパネルが用意されました。谷口先生は「ただ見るだけでは面白くない。何か動くものを作って電気と環境にもっと関心を持つ

てほしい」と願い、古くなった印刷機やゴーカート、自転車などの部品から試行錯誤を重ね、2年後にこのソーラーカーを完成させました。
先生の異動後、南丹市に寄付されて今年4月から市内のイベントで活躍しています。

今回のエコテスト

試乗体験をされた方に感想(①)と環境への心掛け(②)を尋ねてみました。

①意外に速く走ったのでびっくり!②夏はクーラーの温度設定を考えるよう心掛けています。



日下部整子さん・奈緒さん(小3)

①排気ガスが出なくていいと思います。②洗面所の電気をいつもつけたままにしてしまうので消すようにしたいです。



①とてもエコな車だなあと思いました。②電気をつけっぱなしにしないようにしています。

(環境課)



図書館の本はみんなの大切な財産

市民の皆さんに図書館を気持ち良く利用していただくために、守っていただきたい2つのお願いがあります。

■返却日を守ってください

やむを得ず延長を希望される場合は、連絡をいただければ一回に限り延長可能です。(ただし、次に予約がある場合はできません)

■図書資料は大切にしてください

どの資料も市民の皆さんの大切な財産。落書き・汚れ・

破れなどないように大切に扱ってください。もし汚・破損

した場合は、自分で直さずにカウンターへ連絡してください。(弁償していただく場合もあります) CD・DVDは

返却ポストに入れないで直接カウンターへ返却してください。次に利用される方のため

にも必ず守ってください。

新刊紹介



『福永真一のHAPPY しみ抜きライフ』

著…福永 真一
発行…ソフトバンク

クリエティブ株式会社

ワイン、泥はね、口紅、汗じみなど、驚くほど簡単にしみ抜きができる! 毎日の洗濯が楽しくなる方法がいっぱいです。



『もうモノの言い方を知らないなんて言わせない』

監修…篠崎 晃一
発行…小学館

人にものを頼みたいとき、心の込もった謝罪をしたいとき、効果的な最初の一言、気の利いた言い回しを、場面ごとに集めて解説しています。

暮らしと

ホッと

—第3回—
消費生活情報

◇消費者目線で

「消費者庁」創設!

消費者の安心・安全を守ることを目的とした「消費者庁」が、9月1日に発足しました。

消費者庁では、消費者事故情報を一元的に収集・分析し、被害の再発を防ぐために消費者に情報を届けるシステムが構築される予定です。

こんなにやく入りゼリー、湯沸かし器の死亡事故のような痛ましい製品事故が繰り返されないために、このシステムをうまく機能させて、行政、事業者、そして消費者がそれぞれの役割を担うことが求められています。

◇事故情報の提供を!

消費者は事故情報を提供され

るだけではなく、情報の提供者でもあります。

製品事故が起こった場合、「消費者自身の取り扱いの問題(幼児の事故では保護者の責任)」ととらえられがちで、事故があっても相談することが少ないのが現状。しかし、消費生活相談窓口へ寄せられた情報は第2、第3の事故を防ぐきっかけとなり、製品の改良につながります。商品などで事故にあつたら、同じ事故の発生を防ぐためにも、メーカーや販売店だけでなくお近くの消費生活センターに積極的に申し出てください。

《情報提供先》

■商工観光課

Tel 0771 (68) 0050

※事故の内容をお聞きし、消費者庁などに情報提供していきます。

■京都府南丹広域振興局

Tel 0771 (23) 4438

■京都府消費生活安全センター

Tel 075 (671) 0004

(商工観光課)





手作りの温かみと元気も一緒にどうぞ

～大野農産加工グループ～



本格派「さくら餅」^{もち}

【材料】(約 25 個分)

もち米 (2.5 合)、小豆 (0.5 合)
砂糖 (大さじ 1.5)、塩 (小さじ 0.5)
こしあん (250g 程度)
桜の葉の塩漬け (25 枚)

【作り方】

- ① もち米を水に1日つける。
- ② 小豆を10倍の水で煮る。
- ③ もち米を②の小豆汁に一晩つける。
(小豆汁1カップは⑥で使用するので捨てないこと)
- ④ むし器で40分蒸す。
- ⑤ 蒸したもち米をつぶが残る程度に軽くすりこぎでつぶす。
- ⑥ ⑤に小豆汁1カップ、砂糖大さじ1.5、塩小さじ0.5を加える。
- ⑦ さらに30分蒸す。
- ⑧ こしあんを25等分して一口大に丸める。
※こしあんは、市販のものでOKです。
- ⑨ 蒸しあがった⑦を適量手に取り、広げて中にこしあんを入れて包み込む。
- ⑩ 桜の葉の表側に丸めた餅を乗せて巻く。

大野農産加工グループ
代表 小寺 敏江さん
TEL : (0771) 75-9110
(大野振興会)

美山の「西の玄関口」、大野ダム公園。毎年春には「さくら祭り」、秋には「もみじ祭り」で多くの人が訪れます。祭りの日が近づくにつれ、準備に追われる大野農産加工グループ。手作りの温かみを1人でも多くの人に味わってもらおうと「大野のさくら餅」^{もち}、「大野の黄金芋」、「大野焼(どら焼き)」など、商品ごとに班を組んで作り、連日露店に並べます。

大野農産加工グループは、元気で器用な農村女性の能力を、地元特産品作りに生かせないかと平成16年に設立。以降、視察研修で農産加工の研究をしたり、試作品を繰り返し商品開発をしたりして、現在メンバー13人で地域の活性化につなげ



▲濃すぎず薄すぎず「大野焼」の焼印が付けられます

ようと取り組まれています。さくら餅は小豆の煮汁で自然な淡い桜色に染められ、桜の葉の塩漬けは、ダム公園やメンバーの家に植

の梅津義明さん。今後さらなる商品の開発と販路の拡大を目指しておられます。

樹した大島桜の葉を半年かけて塩漬けされます。秋に収穫するサツマイモを持ち寄って作られる黄金芋は、白あんの甘さほっこり、シナモンの香りがする人気商品です。

みんなのお店「大野屋(大野振興会横)」の定休日、毎週水曜日の午前中には「水曜日」を開き、加工品や採れたて新鮮な季節の野菜も販売。「女性は本当に元気。かないませんよ」と笑う、グループ唯一の男性



▲売れっ子の黄金芋

道の駅「美山ふれあい広場」（美山町安掛）に美山ふるさと株式会社の乳製品加工販売施設ができました。美山牛乳を使ったアイスクリームやゼラートなど新製品も登場。屋号は美山町内小学校から応募のあった116点から北田凌輔君（平屋小6年）、鈴木あゆみさん（同）、小畑美紀さん（宮島小2年）の作品を採用し、「美山のめぐみ牛乳工房」に決定。しゅん工式典で優秀作品の表彰が行われました。新たな特産品として地域振興への期待が高まります。



▲屋号へのアイデアが優秀だった児童を式典で表彰

7/1 「美山のめぐみ牛乳工房」しゅん工式

「美山名産デビュー アイスはいかがが？」

「パドル操り軽快に 真夏の水面スイ〜」

7/20〜8/29 大堰川カヌー教室



◀バランスを保って気持ちよく漕ぐ参加者

八木カヌーハウスにはB&G財団から無償貸与を受けたカヌーが16艇あり、毎年夏にはカヌー教室を実施しています。今年は小学5年生以上を対象に7月から8月にかけて計4回開催。第1回目の7月20日には11人が参加。なかなか真っすぐに進めなかった初心者でも、慣れてくると思い通りにカヌーを操れるようになりました。最後には全員で大堰橋まで下り、橋の下からいつもと違う風景を楽しみました。中には4回すべての教室に参加した児童もいました。

みんなのひろば まちの話題を紹介します



▲大ホールに元気いっぱいの演奏が響き渡りました

今年は園部の夏まつりと七夕祭りが同日に開催。当日は朝から大雨に見舞われ予定していた園部小学校鼓笛隊のパレードは園部公民館に会場を変更。子どもたちの演奏を楽しみにしていた来場者で埋め尽くされた大ホールで、児童たちは隊形を変えながらステージと客席を行進。割れんばかりの拍手が送られました。

激しかった雨も午後には収まり、園部町宮町シンボルロードに華やかな七夕飾りと露店がずらり。甚平や浴衣姿の子どもたちでにぎわいました。そしてフィナーレには、仕掛け花火ナイアガラと打ち上げ花火が2年ぶりに園部の夜空を飾りました。



▲七夕祭りでにぎわうシンボルロード

「夏の夜空に揺れる七夕飾りと花火」

8/1 2009南丹そのへ夏まつり



▲「気持ちいい」絵の具まみれで夢中の子どもたち

共同募金を使った事業として、美山保健センターで行われた「絵をかく会」に、生後7カ月から小学生の子どもと保護者66人が参加（南丹市社会福祉協議会主催）。児童美術教育研究家の高森俊さんが「子どもの意志を尊重し、手出し口出しせず自由に」と助言。筆を持って紙に絵を描き始めた子どもたちは、そのうち手足や顔にまで塗って大喜び。その後、絵から読み取れる子どもの精神状態について、高森さんによる個別子育て相談や講演会が行われました。

（8/10）子育て講演会&絵をかく会「子どもの絵はこころ」

「好奇心のまま、自由にのびのびと」

健康で豊かな体力づくりを目的に園部公園スポーツ広場で開催された老人クラブ連合会のゲートボール大会。各町から選出された28チーム176人が熱戦を繰り上げました。「スポーツ大会や研修会などを通して、会員同士の親睦はもとより地域とのかかわりを大切に活動しています。老人が元気だと地域も元気になりますよ」と話す松本^{さくら}会長。最高気温33.9度を観測したこの日、会員の皆さんは元気いっぱいに汗を流されていました。



▲炎天下での真剣勝負！

7/14 第4回南丹市老人クラブ連合会ゲートボール大会

「暑さに負けず、元気はつらつ！」

「『なんで？』不思議が面白い！」



▲科学の不思議に好奇心いっぱい

身近な物を使って子どもたちに科学の不思議と面白さを知ってもらおうと、夏休みを利用した教室を日吉町生涯学習センターで開催。参加した市内の小学1年から5年生17人は、紫外線で色が変わる名刺作りや浮き沈みする魚の工作、ペットボトルの顕微鏡でタマネギの細胞を観察したり、最後にはホールで風船ロケットを飛ばしたりしました。講師の十倉健さんも感心されるほど科学に興味のある子どもも多く、それぞれ自分の手の中で生まれる科学の不思議に目を輝かせていました。

（8/8）夏休み！おもしろ理科実験・物づくり教室

（8/8）ひよこ2009わくわくキッズ「ザリガニつり」

「糸引く手応えに、心躍る夏の思い出」

スプリングスひよし主催の「ザリガニつり」が同施設内の自然観察池で行われ、市内外から家族連れが参加。スタッフの指導を受け、スルメをつけた竹ざおを池に垂らし始めた途端、「わぁ！ つれたー」「お父さん、外して！」「逃げられたあ」とあちこちで上がる歓声。「昔、川でよく釣ったんやで」と親の方が夢中になる姿もありました。この日のチャンピオンは1時間で36匹釣り上げた長岡京市の藤本さん一家。参加者は釣ったザリガニを2匹ずつ持ち帰り、あとは池に戻されました。



▲子どもも大人も水中に潜む赤い姿に夢中

なんたんミュージアム -16-

南丹市立鶴ヶ岡小学校

※担任の先生、担当教科の先生の
講評を掲載しています。

「けんばんハーモニカとぼく」

弓削 朋宏さん (1年)



▶手やけんばんハーモニカをよく見て描けています。素敵な音楽が聞こえてきそうです。

「とんぼの国」

川上 文子さん (3年)



▲7色の虹の空を美しい羽のトンボが飛んでいますね。夢の国の楽しさが伝わってきます。

「カブトムシの幼虫とぼく」

田口 慎太郎さん (2年)



▲カブトムシの幼虫が大きく描けていて、迫力のある絵に仕上げるできています。

「リコーダーを吹くぼく」

小田切 隆二さん (6年)



▶リコーダーを楽しく演奏する自分の姿を、力強く丁寧に表現できています。

編集後記

そよぐ風に秋の気配。パソコン画面とにらめっこしている視線をふと窓外の青空に向けると、穏やかに浮かぶ雲がのんびりと形を変えながら流れています。「ふう…」と一息。なんだかすーっとリフレッシュ。取材先でつちたま職人さんが言われた「無心の先に集中力」、少し通じるものがあるでしょうか。

(A)



市の花 さくら 市の木 ふな 市の鳥 オオルリ

森・里・街がきらめくふるさと 南丹市



●総人口：34,911人(-13)
(男：16,799人・女：18,112人)
(+1) (-14)

●世帯数：13,550世帯(+13)
(平成21年9月1日現在)
()内は前月比



●園部町

木村

ゆうか 優花ちゃん (7歳・右)

こころ 心音ちゃん (5歳・左)

こうせい 幸聖くん (1歳6か月・中央)

「3人仲良く、元気に大きくなってね!!!」

(お父さん・お母さんより)

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは情報推進課広報広聴係まで

広報
なんたん

編集・発行：南丹市役所 企画管理部情報推進課
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL:0771-68-0019 FAX:0771-63-0653
URL:http://www.city.nantan.kyoto.jp
e-mail:jouhou-s@city.nantan.kyoto.jp



本紙は環境への配慮から、森林認証紙に、ソイインキ(大豆油)で印刷しています。